起床還房就役休役罷役其他勤止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ勤止セシム

第二十九條 造船所其他工場ノ役ニ服セシムル時ハ第二十八條ノ例ニ拘ハラズ成ル可ク其工場ニ定メタル時限ニ從フ可シ

（未完）

○警視廳達乙第七號　郡區役所　戸長役場

東京府浚渫工事ノ爲メ芝金杉新濱町陸軍省用地裏ヨリ長サ百貳拾五間導流欄設置ニ付通船止札建設候條右場所通船セサル樣船持主ヘ告示スヘシ

右相達候事

明治十七年五月九日　警視總監大迫貞清

賞勳敍任

○明治十七年五月七日　參議兼外務卿正四位勳一等　井上馨

葡萄牙國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ロルドル、ミリテイル、ドラコンセプシヨン、ドノートルダムドウイラウヰシオサ」第一等勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許候事

○明治十七年五月八日　補海軍省四等出仕　從五位　石丸安世

時事新報

佛國公使將ニ北京ニ入ラントス

支那政府今回ノ更迭ハ主戰党ガ勝利ヲ占メタルニ似タレ圧其實佛國ニ對シテハ和好ニモ近寄ラズ又開戰ニモ近寄ラズシテ只管佛國ノ手出シヲ待ツハ正シク掩フ可ラザル事實ナルガ如シ左レバ支那ハ前內閣恭親王ソノ任ニ在リシ時ニテモ又今日醇親王ガ政事ヲ攝スル場合ニテモ常ニ同一ナル受身ノ姿ニシテ唯佛國ヨリノ申出シヲ待ツノ際恰モ好シ新任北京駐在佛國公使「パテノートル」氏ハ此程本國大統領及ビ首相ニ見ヘテ任命ヲ授ケラレ國書ヲ携帶シ四月中旬若クハ下旬ニハ愈々東洋ニ向テ出發スルノ運ビニ至リシ由ナリ回顧スルニ昨年北京駐在ノ佛國公使「ブーレー」氏突然本國ヨリ召還サレ日本駐在ノ同國公使「トリクウ」氏ハ五月ノ下旬我東京ヨリ轉シテ上海ニ赴キ支那ノ全權大臣李鴻章ニ會合シテ頻リニ談判ヲ催フシ一時ハ双方間ニ議論ノ相容レザリシ處モ多ク米國公使「ヨング」氏ノ如キハ當時兩國ノ間ニ周旋奔走セシモ其事纏マラズシテ數閲月ニ亘リ「トリクウ」氏ハ再ビ北上シテ李氏ニ會同セシモ又同シク不調和ニシテ遂ニ昨年ノ十月天津ヲ辭シ轉ジテ安南ノ順華府ニ至リ尋テ本年ノ始メ佛國ニ歸着シタリシガ氏ガ天津ヲ去リシ以來支那ノ朝廷ニハ佛國公使ノ在勤スル者ナシ尤モ「パテノートル」氏ハ「トリクウ」氏ニ次テ直チニ北京駐在ヲ命セラレシモ爾來半閏年ノ今日マデ任ニ北京ニ赴カザリシハ當時佛軍未ダ東京ヲ經略シ畢ラズシテ未ダ支那ヲ威嚇スルニ足ラザリシガ故ニ暫ク其出發ヲ見合セタルニ由リシナラン然ルニ今ヤ佛軍ハ山西ニ北寧ニ太原ニ興化ニ各所ノ敵壘ヲ陷レ思フ儘ニ其目的ヲ達シタレバ此機ニ乘ジテ「パテノートル」氏ヲ任所ニ派シ愈々支那政府ニ對シテ最後ノ談判懸合ニ及ブハ實ニ戰略上ニ然ラザルヲ得ザル順序ナリト云フベシ昨年十月以來佛國公使ノ其任所ニ在ラザル間ハ支那政府ハ曖昧模稜ノ中ニ和戰ノ兩端ヲ左右スルモ誰トテ之ヲ咎ムル者ナク言ハヾ無責任ノ姿ナリシニ今ヤ佛國公使ガ北京ニ入ルハ今月ノ下旬カ遲クモ來月ノ初旬ニシテ然ル上ハ佛國政府モ該公使ノ手ヲ經テ斷然タル懸合ニ及フベキハ必然ナリ左レバ今回コソハ支那政府ニ取リ和戰孰レニカ決斷セザル可ラザル時期ニシテ彼ノ「ブーレー」公使若クハ「トリクウ」公使ニ對シタル挨拶ノ如キ曖昧不分明ノ手段ニテハ到底叶フ可クモ思ハレザルナリ倚聞クガ如クンバ佛國首相ハ「パテノートル」氏ニ命シ安南清佛葛藤事件ノ償金トシテ三千二百万弗ヲ支那政府ニ要求セシムルノ全權ヲ附與シタリト云ヘリ果シテ然ラバ「パテノートル」氏ハ此全權ヲ擁シテ支那ノ總理衙門ニ談判シ若シ聽カズト云ハヾ兵ヲ以テ廣東ヲ襲ハンカ海南、台灣、舟山ヲ占取センカ但シハ天津ヲ封鎖センカ兎ニ角ニ恐嚇ノ手段ヲ持シ右ニ白刃ヲ提テ左ニ降參狀ニ調印ヲ促スノ懸合アルハ亦遠キニアル可ラズ是ノ時ニ當リテ支那政府ガ兎角ニ確答ヲ爲スベキハ遁レヌ運命ニシテ前日ノ曖昧手段モ最早無効ニ屬スベキヿ勿論ナリ而シテ支那政府ニ於テハ此ニ對シテ如何ナル返答ヲ爲スベキ歟或ハ斷然ソノ要求ヲ拒絶シ國ヲ閉チテ籠城ニ及ブヿ無キニシモ非ザルベシト雖圧十中ノ七八ハ遂ニ依違逡巡ノ際ニ和好ノ條約ヲ結ビ東京ノ主權ヲ打棄テ若クハ數千万ノ償金ヲ出シテ一年半餘ノ虛喝政略ニ化ケノ皮ヲ現ハシ龍頭蛇尾ノ結局ト爲ルニ庶幾カルベシ蓋シ我輩ノ聞ク處ニテハ醇親王等頻ニ李鴻章ガ失職ノ罪ヲ彈劾シテ其免官ヲ上奏シタリト雖圧西太后獨リ之ヲ聽カザルヲ以テ李氏ノ地位ハ先ツ安全ナルベシト云ヘリ然ルニ今度「パテノートル」氏支那ニ入ラバ清廷ノ官吏中果シテ誰レカ之ニ談判應接スベキ滿廷多クハ是レ老衰僻見ノ政治家ナレバソノ任ニ堪ル者ハ李氏ノ外ニ復タ人物無カルベキナリ故ニ李氏ニシテ其地位ヲ失ハザル間ハ亦必ズ佛國公使ニ應接スルノ任ニ當ルベク其際ニハ兼テ清佛兩國ニ仲裁スベシト云ハレタル英國公使「パアクス」氏モ朝鮮ヨリ、米國公使「ヨング」氏モ香港ヨリ立歸リ天津ニ若クハ北京ニ於テ仲裁講和ニ盡力セバ佛國公使ノ言モ或ハ清廷ニ容レラレテ安南多年ノ風雨遂ニ快晴ヲ告クルニ至ルモ自然ノ勢ヒナルベシ抑モ支那ハ是迄安南ヲ其所屬ナリト主唱セシト雖圧佛國ハ昨年八月順化府ニ於テ理事官「ハーマン」氏ヲシテ安南ト條約ヲ結バシメ其國ヲ自主、其王ヲ獨立ナリト見認メ佛國ニテコレガ保護權ヲ左右スルヲ約束シ尋テ「トリクウ」氏ヲシテ全權使節トシテ安南王ニ謁見シ條約批准ノ打合セヲ爲サシメ而シテ氏ガ巴里府ニ歸着シタルト同時ニ「パテノートル」氏ハ北京駐在使命ノ外ニ安佛條約批准交換ノ特命ヲ帶ビタル由ナレバ其北京ニ進ムノ前ニハ必ズ順化府ニ於テ條約批准ヲ取交ハシ然ル後ニテ北京政府ニ懸合フナラバ支那政府モ又々去年ノ例ノ如ク安南ハ中國ノ所屬ナリト爭フヿヲ得ベカラザルベシ要スルニ新任佛國公使「パテノートル」氏ノ入清ハ久シク結テ解ケザリシ交渉事件ヲ落着セシメ且ツ支那ト安南トノ關係ヲ斷絕スルモノナルコ

トハ我輩之ヲ他日ニ徵シテ其果シテ然ルヲ知ラント欲スルナリ

電報

○五月六日龍動發　埃及政府は同國財政整調の事を議する會議（歐洲[illegible]の）に發言を求めたり○英女皇はダルムスタッドを出發したり

雜報

○[illegible]二品[illegible]親王には御沙汰を蒙られ千葉縣習志野へ出張在らせらるゝ由は曩きに本紙上に記載せしが[illegible]九日午[illegible]員を隨へ出發せられたるが明日は直に歸京の筈なりと

○英女皇　本日の電報にある如く先に日耳曼のダルムスタッドへ赴かれたる英女皇には同所出發還幸の途に就かれたる由なり

○三條太政大臣　三條太政大臣は一昨八日御用に付京坂地方へ出張仰付られ內閣權少書記官田中榮秀氏は同大臣隨行を命せられ明十一日橫濱發の滊船東海丸に搭して出發する由

○寺島宗則君　同君が特命全權公使として米國華盛頓府在勤中は公務の傍專ら米國の制度等を取調べ或は日本の國會憲法上の事に付ても夫是と考案を費し終日書齋に籠りて書を讀み筆を執りて居ることなどは珍らしからざりし由にて爲めに社會交際上の訪問往來も自然不行屆なるより華盛頓府の某手社會にては彼是と批評せられたることもありしのみならず遂には同君自身の健康をも大に損傷する所ありし程の事なりしといへば今度同君が宮內省出仕に轉し制度取調局に兼勤して伊藤[illegible]力を極めるは甚だ適當の任ならんと或說に[illegible]寺島君が[illegible]朝の後其筋の或方が君との話次に米國の制度[illegible]調べ[illegible]りしは滿足至極なるよし言ひ出でしに否とよ不才の拙者米國の制度を調べんとせしも一向に分り申さず唯一つ分りたるは一二年の在留位にて米國の制度が分るものではなんと申す事丈け分りたると存せらるゝなりと答へしとか云へり事實の有無は知らざれども今の日本人と違ひ西洋の事に明るくして近き日本の事に暗いなどいふ妙な說を爲す者ある時節に甚だ味ひある一言といふべし

○原田陸軍少將　兼て大坂砲兵工廠へ出張を仰付られたる[illegible]長原田陸軍少將は去る六日東京を出發したり

○轉任兼勤の噂　土方內務大輔は近日制度取調局兼勤に又品川農商務大輔も參事院議官に、西園寺同議官も米國駐在特命全權公使又恩給局主事渡正元氏は同局長に、同局御用掛長岡義之氏は主事に轉任するやの噂あり僞如何にや

○大藏書記官勤
八日全省に於て
書記局勤務申
記錄局勤務申
書記局勤務申
但兼務如故
書記局勤務庶
官報掛長申付
○省中改革
記局中に庶務課
られ又從來庶務
しぶりと
○官廳彙報
出納課長免せら
書記官長谷川
務仰付られた
十日靖國神社祭
雅喬氏は規程局
○工部省准奏任
用掛兼勤仰付
太政官に於て
仰付られたり
○縣令出京
三日の內任地
○縣令歸縣
にて昨日橫濱
○英政府敗北
党議員アルバ
提出せしに政
保守党は百九
を通過し政府
時鳴りも已ま
○拿勃崙親王
先頃檄文を發
避けんため文
れたる由三月
○北京は日本
の公使館より
義公使館の跡
○パアクス公
使、パアクス
トン、北京代理
コット、上海
事は領事館設
○左宗棠彈劾
く其罪を指斥
武庫に於て無